

# 「ポケモンGO」などスマホの進化が地域社会・地域経済に与える影響に関する有識者会議 報告書(概要版)平成29年3月

## 1. 有識者会議を開催するに至った経緯

平成28年7月の「ポケモンGO」の配信が、市民の外出機会や新たなコミュニケーションの場を生み出す一方、危険箇所への立ち入りや交通事故、犯罪等に巻き込まれる事案の発生等、社会問題化する中で、自治体も機動的に必要な対応をとっていく必要が生じた。

そこで、「ポケモンGO」等のスマートフォン及びその利用サービスの進化が与える影響について、専門的、大局的見地から意見を得るため、本有識者会議を開催した。

## 2. スマートフォンの進化への対応を考えていくうえで踏まえるべき視点

有識者会議では、地域経済、安全・安心、ネット依存症、子育て・教育等、多様な観点から議論が交わされ、それらの意見を「踏まえるべき視点」としてまとめた。

### (1)スマートフォンの進化がもたらす地域経済への影響という視点

コンピュータの小型化に伴い、スマートフォンの活用は今後日常生活の中でますます広がり、様々な場面で新たなビジネスとの連携の可能性が広がる。スマートフォンのさらなる進化と活用の可能性を阻害してはいけない。

### (2)サービスを支えるインフラという視点

サービスを提供するには、通信、センサ、ネットワーク、人材等のインフラが必要で、インフラ整備に目を向ける必要がある。

### (3)移動支援ツールとしての視点

視覚障害者の移動支援等への活用が今後飛躍的に進歩することが予測され、神戸が取り残されないようにする必要がある。

### (4)コンピュータの進化に伴う「脳の外在化」という視点

コンピュータの小型化に伴い、計算や記憶等の人間が行っていたことがコンピュータに取って代われ、脳の外在化が進んでいる。脳の外在化による影響という視点も持つ必要がある。

### (5)インターネット依存症という視点

症例のほとんどは中学・高校・大学生であり、医療、学校、家庭だけでなく、様々な機関が連携し本格的に対策を考えていくべき段階に来ている。

### (6)「依存」と「自己投入」「没頭」の違いという視点

「依存」と「自己投入」「没頭」の違いをこれからの産業・職業の変化とあわせて考えると、今良くないとされることが実は将来的に重要なものになっていく可能性を持っており、その可能性をつぶすべきではない。

### (7)子どもへの影響という視点

乳幼児期には成長(からだ)や発達(こころ)への影響がみられる。使用年齢の急激な低年齢化が進んでおり、いじめや売春等のトラブルや犯罪も生じているが、フィルタリングや使用時間の管理等の規制が十分普及していない現状がある。

### (8)子どもを育てる保護者への影響という視点

子育てにスマートフォンを使用する際に、スマートフォンを与えるだけで子どもの相手をしない等の「大人が介在していない」ことが問題であり、子どもの変化に気づかない、子どもとの距離が離れ、保護者と子どもの親密度が下がることにつながる。

### (9)サイバー犯罪という視点

インターネットが身近なものになり、インターネットを悪用するサイバー犯罪の件数は増加傾向にある。被害事例として、不正送金事犯やランサムウェア、不正プログラムによる被害の事例があり、セキュリティに関する教養と情報の周知が必要である。

### (10)ICTリテラシーの向上という視点

高齢者や子どもといった乱用・悪用の被害者になりやすい層に対して、ICTリテラシーを向上させるためにどう対策を講じていくかを考える必要がある。

## 3. スマートフォンの進化が与える影響に関する提言

### (1)活用面

- ICTの今後の進化を見越して、神戸でいち早く情報を収集し、安全性を考慮したうえで、活用を考えていくことが重要である
- 人口減少社会における効果的・効率的な行政運営と市民サービス向上のため、行政分野でのICT活用が必要である
- 通信やデータ整備等の「技術インフラ」と、プログラミング教育等による「人的インフラ」等のインフラ整備が重要である

### (2)対策面

- 子どもと保護者に対し、子どもの発達段階に合わせて、フィルタリングや時間管理等の規制、適切な使用についての教育を行うことが必要である
- 保護者に対し、子どもが小さい時期からスマートフォンの適切な利用について理解してもらうことが必要であり、そういった機会を子育ての現場に行政として体系的に取り入れていくことが必要である
- スマートフォンの進化による影響にはプラスの面とマイナスの面とが混在することから、スマートフォンをいかに上手くスマートに(賢く)利用していくかが重要である

### (3)今後の展開

- 実態調査、ルールづくり、シンポジウム等、子どもや保護者を含む多くの市民の参画を得ながら、神戸市としてのスマートフォンの使い方についての共通理解を醸成していくことが重要である
- 今後も変化し続ける状況に対して行政として情報収集を行い、市民に発信し共有することが重要である